

令和3年度 岩手医科大学入学式



主な内容

- 巻頭言——薬学部長就任挨拶
看護学部長就任挨拶
全学教育推進機構長就任挨拶
総合情報センター長就任挨拶
シミュレーションセンター長就任挨拶
- 特集——岩手医科大学臨床研修医等宿舎
「Resident Heim」完成
- 令和3年度事業計画
- トピックス——令和3年度岩手医科大学入学式が挙行されました
トピックスプラス——肥満症外科治療センターが開設されました
- 募金状況報告
- フリーページ——すこやかスポット医学講座No.100
「透析療法の最近の状況」
- 表紙写真：令和3年度岩手医科大学入学式

薬学部長就任挨拶

薬学部長 河野 富一

(薬科学講座創薬有機化学分野 教授)



本年4月1日をもって第5代薬学部長を拝命いたしました。低迷している薬剤師国家試験合格者を向上させ優秀な薬剤師を数多く輩出できるよう、学部のかじ取り役としての責務に全力で取り組んでまいりますので、これからよろしくお願い申し上げます。

平成19年4月、学部設置時に掲げられた本学薬学部の主たる目的は、「薬学の最新知識のみならず、医療人としての総合的な知識、技能、態度を備えた薬剤師の養成」です。しかし、その目的達成度を測る指標の一つである薬剤師国家試験の結果はこれまで、第一期生が挑んだ第98回国試では90%を超える合格率が達成されたものの、その後は他大学の後塵を拝する結果が長く続いておりました。そこで、直近の第106回国試に挑んだ昨年度の6年生に対しては、前学部長のもと国家試験対策の抜本的改革をおこなった結果、第一期生に次ぐ新卒合格率(87.5%)を達成することができました。この結果はもちろん学生の頑張りによるものですが、

教員と学生とが向き合った時間にも関係があるように思います。この流れを決して断ち切ってはいけません。むしろ、より盤石なものとしさらに上昇することが必要です。そのため、薬学部では、令和3年度を「薬学部 ReBorn の年」とし、第106回国試対策として実行した取り組みをベースに薬学部全学年の教育改革を断行します。この教育改革では、国家試験を意識する高学年の教育を充実させることはもちろんのこと、基礎的な知識を身につける低学年教育にもこれまで以上に全力で取り組むことが必要不可欠です。元三洋電機副社長の後藤清一氏の名言、「何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」のごとく、基盤のしっかりとした教育を実践してまいります。薬剤師になることを目指して本学に入学してくれた薬学部生個々が自己成長しさらに自己実現を果たせるように、岩手医科大学の教職員の皆様には学生に対して様々な取り組みと手厚いサポートをよろしくお願い申し上げます。



看護学部長就任挨拶

看護学部長 三浦 幸枝

(共通基盤看護学講座 教授)

この度、4月1日付をもちまして、嶋森好子前看護学部長の後任として看護学部長を拝命いたしました。バトンを渡され、責任の重さに身の引き締まる思いではありますが誠心誠意務めさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

看護学部は3月に完成年度を迎え、実践的な連携教育を受けた卒業生を保健師、助産師、看護師として社会に輩出することができました。これから、卒業生がチーム医療の中でリーダーシップを発揮し安全で質の高い医療に貢献できること、組織を革新する中心的な存在になることを切に願っております。

新型コロナウイルス感染の世界的な流行に伴い、多くの看護大学が臨床実習をできない状況でありましたが、附属病院の皆様の大変な尽力のもと、従来通りの臨地実習を施行することができております。皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

看護教育では、生涯学習者としての姿勢を身に着けることが推奨されています。看護基礎教育から卒業後教育まで継続性をもつためには、基礎教育と臨床がどのように連携していくかが大きな課題とされています。現在、臨床と教育の乖離を

少しでも解消するために、演習や授業に附属病院の看護師を講師として派遣していただき、現場で必要な技術や考え方を学生に教授していただいております。今後も、看護の実践と教育・研究と連携し、看護教員の実践能力の向上と臨床看護の質向上を図っていきたくと考えております。その為には、臨床の場にいる看護師が抵抗なく教育の場に行く、教育の場にいた教員も臨床の場に抵抗なく戻れるような環境整備が必要です。多くの看護職が行き交う橋をかけることに努めます。それを無くして教育活動の真の評価は達成できないと言えます。それが、大学病院と教育機関を備えた自分たちに期待されていると考えます。

私の使命は、医療の本来のあり方に寄与する、幅広い教養と深い人間愛、社会性の素養をもった看護職の育成であります。さらに、慢性的な看護職不足が叫ばれる岩手県のみならず東北地域全体の期待に応えるべく、優れた看護師・保健師・助産師を養成するとともに、現役看護職者の資質向上・生涯教育にも積極的に貢献していきたくと考えています。

今後とも、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

全学教育推進機構長就任挨拶

全学教育推進機構長 田島克巳

(医学教育学講座医学教育学分野 教授)



この度、小川理事長と祖父江学長の御高配により、全学教育推進機構長の役職を拝命いたしました。ここに、誌面を借りて大学内の皆様にご挨拶を申し上げたいと存じます。

全学教育推進機構は2014年に全学教育運営委員会をもとに立ち上げられた組織で、その業務は、全学の連携・横断教育の推進、全学的な教育施策の企画、立案及び点検・評価、教育に係る各種補助金の応募企画、学修環境の整備計画の策定に関することとなっております。

この中でも全学的な教育施策の企画、立案及び点検・評価は、文科省の施策誘導の1つである分野別評価や機関別認証評価、さらには各種補助金に直結してくる事項になってまいります。また、将来的には大学の存続に関わる評価になる可能性があることから、特に重要なミッションと考えております。これらの評価のためには、各学部と連携して、行動科学やプロフェッショナル教育の充実、統合型カリキュラムの立案、ディプロマポリシー (DP) に挙げられた能力の修得を立証できる評価システムの開発が必要になってまいります。

DPの習得を保証するためには、学生の各種情報の集積と解析を行なうIR (Institutional Research) が必要になってまいります。本学では

このIRは全学教育推進機構内に設置されており、機構長がその管理者となっております。このIRの業務の中には、学生の成績の分析の他に、教育の質保証に関する情報の分析が含まれております。教育のPDCAサイクルを回していくための重要な基礎データを提供していくために、さらなるデータ収集を進めていくことが必要になってまいります。

また、本学の教育の特徴の1つとして体系化された多職種連携教育がありますが、これは学部間の垣根を越えたプログラムということで、全学教育推進機構が担当しております。このプログラムは外部評価においても注目をされているもので、さらなる充実を図っていくことが必要になってまいります。

このように本学の教育の一翼を担う組織を任されるという大役を仰せつかり、責任の重さに身の引き締まる思いであります。より一層努力を惜しまず精進してまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

総合情報センター長就任挨拶

総合情報センター長 田中良一

(口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野 教授)



初夏の候、皆様におかれましては益々健勝のこととお慶び申し上げます。

4月1日付で総合情報センター長を拝命いたしました。これまで、副センター長として活動してまいりましたが、本学の情報環境整備の重責を果たすべく引き続き邁進してまいります。

昨今の医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、情報を正しく管理し取り扱うことが益々重要となっています。一方で厳しい社会情勢の中でコストメリットを意識した整備と運用の適正化を図ることも求められています。総合情報センターは附属病院のみならず、大学全体の情報の基盤を支える組織であり、過不足なく柔軟に変化に対応できる環境を構築する様に努めてまいります。

また、組織内での情報利用にとどまらず、連携の枠を広げたうえで、さらなる情報の活用も求められています。特にここ数年、医療情報連携における標準化の動きは加速していますが、本

学の有志とともにこの活動にも参画し活動しているところです。

また、これまでは医療における情報環境はガラパゴス化していましたが、既にWEB標準技術を取り入れ、かつグローバル化に対応する環境づくりが求められています。新型コロナウイルスへの対応など社会的な制約も大きい中ですが、遠隔診療やリモートワークなどを含め、情報連携に関する変革の波は様々な角度から到来しています。目下の課題に一つ一つ対応してゆくことはもちろんですが、このような世の中の流れを見据え、皆さまとともにより良い環境の構築に邁進したいと考えております。

ひきつづき暖かいご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

シミュレーションセンター長就任挨拶

シミュレーションセンター長 伊藤智範

(医学教育学講座地域医療学分野 教授)



このたび、佐藤洋一名誉教授からシミュレーションセンターを引き継いでいただきました。小川理事長、ならびに祖父江学長からのご高配を賜り、この重責に身の引き締まる思いです。

このシミュレーションセンターは、内丸地区にあった各科が独自で運用していたスキルスラボを発展的に統合させる形で、2019年の病院移転を機に整備された部門です。場所は、マルチメディア教育研究棟災害時地域医療支援教育センターの臨床シミュレーションセンターと共同です。いま医学教育では、シミュレーターを用いた教育が、分野別評価でも必須として挙げられており、医療系のアカデミアとして、避けては通れない領域になりました。On the job trainingだけで賄われていた昭和・平成時代の教育では通用せず、医療安全の面からも適切なシミュレーター教育が求められています。本学では、これまでシミュレーターを用いた教育文化が必ずしも浸透していたとは言えず、大学として包括的・戦略的ではありませんでした。この点は、前任の佐藤洋一名誉教授も、2019年就任ご挨拶で述べられています。すなわち、この横断的に整備されたセンターを上手に活用することが求められます。幸い、本学のシミュレーションセンターに

は、災害シミュレーションの全国的な知名度を持つエキスパート眞瀬智彦教授、一般医学教育方面のシミュレーション教育に秀でた相澤純特任講師という両名、ならびに優れた事務方スタッフがいらっしゃいます。本学が開設した東北・北海道で最新最先端病院と車の両輪となるべき学内パートナーが、シミュレーションセンターの位置づけであると考えられます。つまり、さまざまな職種とレベルのシミュレーションセンター使用実績の向上が、病院内外での教育のドライビングフォースにもなりえます。患者さんのベッドサイドとシミュレーションセンターの緊密な連携が、これからの医学・医療教育の柱になると確信しています。佐藤洋一先生がセンターの基盤整備にご尽力いただいた後を引き継ぎ、さらに発展させられるよう、Simulation to Bedside (STB) をキーワードとして、実績をあげてまいります。シミュレーションセンターの門戸は、職種を問わずいつでも開けておりますので、ご利用についてはご遠慮なくご相談ください。皆様からのご支援ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特集

Resident Heim

レジデントハイム

岩手医科大学臨床研修医等宿舎

「Resident Heim」完成

レジデントハイム

令和3年3月に完成した臨床研修医等宿舎「Resident Heim」。本稿では、落成式典の様子や宿舎内について紹介します。

落成式典

令和2年9月に着工した臨床研修医等宿舎新築工事はこのたび完成を迎え、令和3年3月22日（月）に矢巾キャンパスのマルチメディア教育研究棟西側に新設された臨床研修医等宿舎の玄関前において、臨床研修医、専門研修医、高度看護研修センター研修生等を対象とした宿舎「Resident Heim」の落成セレモニーを挙行了しました。

当日は、雨天のためテント内となりましたが、小川理事長をはじめとした大学関係者や岩手県、矢巾町、施工業者等、約30名の出席の下、華やかに執り行われました。セレモニーに引き続き、ご出席いただいた方々を対象に当宿舎の施設見学が行われました。

■ テープカット

落成式に先立ち、テープカットが行われ、臨床研修医等宿舎の完成を祝いました。

写真左から：

- 祖父江学長
- 小原紀彰岩手県医師会長
- 菊池哲岩手県副知事
(岩手県知事代理)
- 小川理事長
- 下沖医師卒後臨床研修センター長

(3月時点)



■ 祝辞

達増拓也岩手県知事（菊池哲副知事代読）から、「県内唯一の医育機関である岩手医科大学において、臨床研修医等宿舎が新たに整備されることとなり、県としても支援させていただいた。今後、医師をはじめとした医療人材の確保定着や資質向上に繋がり、本県の地域医療の確保に大いに資するものと期待している。県では引き続き、岩手医科大学と連携協力し、更なる医療施策の推進を図っていく」との祝辞が述べられました。



■ 施主挨拶



小川理事長から、「本宿舎は臨床研修医のみならず、専門研修医等、広く若手医師の利用を見込んでいることから、この宿舎整備が契機となり、これまで以上に多くの臨床研修医等がこの地で豊富な経験と研鑽を積み、近い将来、本学並びに地域医療の発展に大いに寄与されることを期待している。また、今後の医師の働き方改革におけるタスクシフトの推進を視野に認定看護師や特定行為の研修課程を履修する高度看護研修センター研修生の利用も可能とし、当該看護師の普及により、本県の医療提供体制の充実にも繋げたい」との施主挨拶がありました。

臨床研修医等宿舎「Resident Heim」

本宿舎は、医師確保、および高度専門医療を担う人材育成に係る環境整備の一環で建設されました。附属病院と連絡通路で接続され、屋内での往来ができる設計です。居室のレイアウト等には、現役の臨床研修医の意見が取り入れられていることに加え、防音機能やプライバシーも考慮され、安心・快適な住居空間を確保しています。入居対象者は、本学附属病院の臨床研修医、専門研修医、高度看護研修センター研修生等の他、他病院に在籍しながら本学附属病院で短期間研修をする院外研修医も利用可能です。院外研修医用の部屋には、短期入居者向けに、ベッドや冷蔵庫、テレビ等、家具・家電も配備されています。詳細は、医師卒後臨床研修センターホームページをご覧ください。



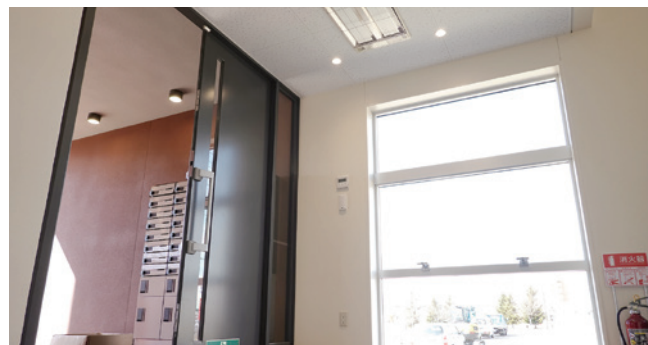
建物概要

対象者	臨床研修医、専門研修医、高度看護研修センター研修生 他	戸 数	30 室（院外研修医用 3 室）
構 造	鉄筋コンクリート造 2 階建	間取り	1 ルーム（居室 12 帖）
設備・備品	オール電化、ユニットバス（浴槽 200ℓ）、浴室乾燥機、洋式トイレ（温水洗浄便座）、IH コンロ（1口）、エアコン完備、インターネット設備（有線 LAN ポート 1 口、無線 Wi-Fi 利用可）、LED 照明、二重窓、クローゼット、インターフォン、各戸テンキー錠 等		

宿舎内



エントランス



エントランスホール



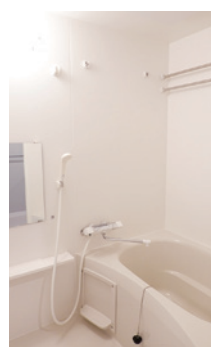
リビング（窓側から撮影）



リビング（キッチンから撮影）



キッチン



ユニットバス



洗面所



クローゼット

事業計画

1. 策定と方針

本法人は、最新の生命科学に対応した教育・研究・診療の実践、そして地域医療支援の責務を全うしていくために総合移転整備計画を策定し、開設以来拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへ大学施設の段階的整備を進め、2019年度には国内有数の規模を誇る附属病院が竣工、内丸メディカルセンターとともに開院に至り、医療系総合大学の新たな歴史を歩み出した。

本来、2020年度は、病院の運営を軌道に乗せ、事業資金を確保しつつ内丸地区整備事業を推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う受診抑制や手術制限等は、医療収入に大きく影響を及ぼし、また同感染症対応について先を見通すことが困難な状況から、当該事業の計画は延期を余儀なくされた。この苦境を打開するために、現在、病院、大学の経営改善、施設面における経費節減等の様々な策を講じているところであり、2021年度以降も継続して経営基盤の改善を図ることが重要となる。そして、医療系総合大学として、誠の人間を育成することを第一義に、質の高い教育研究活動を実践し、国家試験合格率の向上、学生の確保、外部資金の獲得等に努め、また県内唯一の特定機能病院として、高度医療を提供し地域医療に貢献していかなければならない。

本法人は、私立大学における経営環境が一層厳しさを増す中、安定的な運営を行い、使命を果たしていくために「Vision 2020-2024 学校法人 岩手医科大学中期計画」を策定した。その取組・進捗状況については検証の上、必要に応じ計画の見直しを行い、事業の適切な推進に努めることとしている。2020年度実施予定事業について検証を行った結果、10月時点で「計画どおり達成した：24事業」「計画どおり達成する見通しである：81事業」「計画どおり達成する見通しが立たない：11事業」となった。計画どおり達成する見通しが立たない事業は、主に新型コロナウイルス感染症に起因するものであり、大学の財政状況等を踏まえ、計画の一部見直しを行ったところである。以上を踏まえ、中期計画に基づき、2021年度は以下の事業を実施する。

なお、本事業計画は、2020年度に受審した機関別認証評価の結果を踏まえて見直す場合がある。

2. 主要な事業計画

※掲載内容は、「令和3（2021）年度事業計画書」を抜粋したものです。
詳細は、本学ホームページ（情報公開→令和3年度）をご覧ください。

1. 創立120周年記念事業関係

- ①内丸メディカルセンター新棟建設計画（仮称）の推進
- ②内丸地区跡地活用計画の検討の推進
- ③事業活動資金の確保に向けた募金活動の継続実施

2. 教育・研究関係

- ①大学院医学研究科の教育課程におけるICTの充実
- ②大学院医学研究科における情報公開の充実及び募集広報方式の改革
- ③医学部における学修支援体制の強化による医師国家試験合格率と進級・卒業率の向上
- ④大学院歯学研究科における学位論文の審査基準の設定及び学生への事前周知（早期課程修了を含む）
- ⑤歯学部教育課程の充実
- ⑥歯学部における計画的な教員選考
- ⑦薬学部における教育の質向上と入学者確保に向けた取り組み
- ⑧看護学部設置から4年間の検証と完成年度以降の教育研究組織体制の構築
- ⑨全学的教育改革の検討と支援

- ⑩ 教学 IR (Institutional Research) の充実
- ⑪ 教養教育、準備教育に係る教育見直しと高大連携の改善
- ⑫ シミュレーション教育環境の整備
- ⑬ 実習関連機器等（教養教育センター）の年次更新
- ⑭ 矢巾キャンパス施設の視聴覚機器の計画的更新（6 か年計画 3 年目）
- ⑮ 入試制度改革の推進と戦略的な学生募集活動
- ⑯ 古書・貴重書の修復・保管
- ⑰ 地域への情報発信
- ⑱ 蔵書構築プランの策定
- ⑲ 知的財産本部における社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進
- ⑳ 学生支援体制の推進（キャンパスライフガイド等の見直し）
- ㉑ 学生のキャリアビジョンを上げ、希望する就職を実現するための支援
- ㉒ 第 6 3 回医学系大学倫理委員会連絡会議
- ㉓ 医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3. 補助事業及び委託事業関係

- ① 災害対応医療人の育成に向けた取り組み
- ② 東北メディカル・メガバンク計画
- ③ 岩手県ドクターヘリ運航事業
- ④ 岩手県こころのケアセンター事業
- ⑤ いわてこどもケアセンター運営事業

4. 診療関係

- ① 医師の時間外労働規制に対する取り組み
- ② 病院運用の効率化に向けた取り組みの推進
- ③ 附属病院・内丸メディカルセンター 1.5 テスラ MRI 装置の移設
- ④ 内丸メディカルセンター病院機能評価受審に向けた体制整備

5. 管理運営関係

- ① ガバナンスの向上等による運営基盤の強化
- ② 勤怠管理システムの導入
- ③ 借入金の返済と借入利息の支払い
- ④ 資金計画のための財務分析
- ⑤ 本法人保有資産の有効活用
- ⑥ 矢巾・内丸学術ネットワーク更新
- ⑦ 内丸メディカルセンター診療系ネットワーク更新
- ⑧ セキュアインターネットゲートウェイの導入、運用
- ⑨ 矢巾地区 A 敷地－C 敷地間バックアップ回線整備
- ⑩ 標準的な内部監査手続きの徹底による法人運営の効率化に資する内部監査の実施

6. 施設設備関係

- ① 矢巾キャンパス各棟屋上の冷温水発生機用重油配管更新
- ② 内丸キャンパス歯学部冷房用ターボ冷凍機分解整備
- ③ 内丸キャンパス電気設備修繕（PCB 汚染電気機器取替・廃棄処分）
- ④ 矢巾町・町道 1 号線の拡幅工事に伴う B 敷地駐車場出入口の盛替工事
- ⑤ 矢巾キャンパス図書館災害（図書落下）防止対策
- ⑥ 内丸メディカルセンタートイレ修繕

本法人は、2020 年度から 2024 年度にかけての主要計画を取りまとめ、2020 年 3 月に「Vision 2020-2024 学校法人岩手医科大学中期計画」を策定し、本年 3 月に計画の一部変更等を行いました。

令和 3（2021）年度事業計画は、この中期計画に基づき策定しています。詳細は、学内限定ホームページ（職員の皆様へ）で閲覧できますので、職員の皆様におかれましては、ぜひご覧ください。



(公財) 大学基準協会から「大学基準に適合している大学」として認定されました

本学は、令和2年度に（公財）大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審し、点検・評価報告書等による書面評価および評価委員による実地調査（オンラインにより実施）の結果、3月12日（金）に「大学基準に適合している大学」として認定されました。

この制度は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）が実施するもので、国公立全ての大学、短期大学、高等専門学校は7年ごとにこの評価を受けることを義務付けられております。評価結果の詳細は、大学ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



祖父江学長と小川理事長

臨床研修修了証授与式が挙行されました

3月16日（火）、附属病院10階大会議室において、令和2年度岩手医科大学附属病院臨床研修修了証授与式が執り行われ、2年間の臨床研修を修了した臨床研修医19名に対し、小笠原病院長より修了証書が授与されました。

式は修了証授与に始まり、小笠原病院長、伊藤薫樹副センター長、伊藤智範副センター長、新田副センター長、小山副センター長からの祝辞と続き、最後に最優秀臨床研修医に選ばれた村木孝次医師と伊藤一洋医師に下沖センター長から表彰状と目録が贈られました。

今後は、修了者全員が専門医取得を目指すこととしており、内18名が当院に在籍します。4月からは上級医として臨床研修医を指導する側となり、医師卒後臨床研修センターを強力にバックアップしてくれるものと期待されます。



修了者と関係教員

心のサポーター養成に関わる研修プログラムを開発しました

厚生労働省令和2年度障害者総合福祉推進事業「精神障害者の心理的危機に対する早期対応や危機介入方法の普及と教育効果に関する検討」において、神経精神科学講座の大塚教授が中心となり、全国の専門家と協力して「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業（厚生労働省）」における心のサポーター養成事業の養成研修プログラムを令和3年3月に開発しました。本事業では精神保健の専門家や従事者、当事者、家族に意見を求めながら、専門家により研修テキストを策定し、3月22日（月）、地域の従事者等を対象にオンラインでの研修を試み、簡易的なマニュアルを開発しました。

厚生労働省では心のサポーター養成に関わる事業について、今後、今回開発された研修プログラムをもとにモデル事業を経て、全国での事業展開により100万人のサポーター養成を目指しています。本事業の成果が地域での精神保健活動の一助となり、国民的課題である精神障がい者の地域ケアがさらに推進されることが期待されます。



開発した研修テキスト
及びマニュアル

名誉教授称号授与式が挙行されました

4月1日（木）、本部棟4階大会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。式では、小川理事長が前物理学科佐藤英一教授及び前共通基盤看護学講座嶋森好子教授に名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列左から 三浦看護学部長、酒井副学長、三浦副学長、松政教養教育センター長

前列左から 小川理事長、佐藤英一名誉教授、嶋森好子名誉教授、祖父江学長

令和3年度岩手医科大学医療専門学校入学式が挙行されました

4月3日（土）、歯学部4階講堂において、岩手医科大学医療専門学校の入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染対策として、式には入学生のみが出席しました。

式では、三浦校長から「建学の精神である「誠の心」を持った歯科衛生士として、患者さん、社会から信頼され、21世紀の歯科医療を支えてくれることを期待する」との式辞があり、小川理事長からは「患者さんの命に関わる仕事であることを理解し、知識と勇気を磨くべく勉学に励んでほしい」と祝辞がありました。

歯科衛生学科41名を代表して三浦奏さんが「本学の学生としての自覚を持ち、勉学に精進することを誓います」と宣誓しました。



入学生宣誓を行う三浦奏さん

高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程と特定行為教育課程の合同開講式が挙行されました

4月5日（月）、附属病院10階研修室において、緩和ケア認定看護師教育課程及び特定行為教育課程の開講式が合同で挙行されました。新型コロナウイルス感染対策として、緩和ケア認定看護師教育課程の研修生はオンラインでの参加となりました。

式では、木村センター長から「大勢の研修生たちと切磋琢磨し、患者のQOL向上を目指すため、専門的な知識・技術を基にした質の高い実践力を身に付けてほしい」と式辞が述べられました。

緩和ケア認定看護師教育課程12名、特定行為教育課程12名の研修生を代表して、特定行為教育課程の小向泰樹さんが「チーム医療におけるキーパーソンとして多職種と協働できるよう、学びを深めていきたい」と決意を述べました。



小向泰樹さんによる研修生代表挨拶

令和3年度岩手医科大学入学式が挙行されました

4月16日（金）、岩手県民会館大ホールにおいて、岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染対策として、入学生及び教員のみ参加とし、参加できなかった保護者や教職員に向けて、ライブ配信が行われました。

式は、国歌斉唱（感染対策のため演奏のみ）に始まり、各研究科の新入生50名、3学部の編入学生8名、4学部の新入生293名の合計351名に対する祖父江学長からの入学許可宣言がありました。研究科を代表して板持雅知さん（医学研究科）、学部を代表して瀧澤友理さん（医学部）から宣誓があり、その後、祖父江学長からの式辞及び小川理事長からの祝辞に続き、在学生を代表して医学部4年岡橋亮さんから在学生歓迎の辞が述べられ、最後に校歌斉唱（演奏のみ）を行い、閉式となりました。

新入生は新たな門出の一步を踏み出し、期待に胸を膨らませている様子でした。

令和3年度岩手医科大学入学生			
医学研究科博士課程	28名	医学研究科修士課程	8名
歯学研究科博士課程	12名	薬学研究科博士課程	2名
医学部編入学	4名	歯学部編入学	2名
看護学部編入学	2名	医学部	123名
歯学部	40名	薬学部	39名
看護学部	91名		



岩手県民会館大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓

肥満症外科治療センターが開設されました

4月1日（木）、内丸メディカルセンターに肥満症外科治療センターが開設されました。日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会より、「日本人肥満2型糖尿病患者の手術適応基準に関するコンセンサスステートメント」が発表され、これに伴い、肥満2型糖尿病に対する外科治療の適応拡大が見込まれることから、総合的な診療体制と最先端治療を目的に、肥満症外科治療センターが設置されました。

■肥満症外科治療センターの紹介

外科学講座の佐々木章教授がセンター長を務め、外科や糖尿病・代謝・内分泌内科、消化管内科等、肥満関連健康障害に関連した13診療科と管理栄養士、看護師等が連携して強固なチーム医療を継続して行っています。

外来診療は月曜日と水曜日の午前中に行われ、月曜日は糖尿病・代謝・内分泌内科、水曜日は外科で診療されています。当センターの受診は完全予約制となりますので、詳細は本学附属病院ホームページをご確認ください。



水曜日の診療（内丸メディカルセンター1階フロア）



月曜日の診療（内丸メディカルセンター2階フロア）

■記念式典・記念講演会を実施しました

4月3日（土）、ホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGでセンター開設に寄せて、記念式典・記念講演会が行われました。新型コロナウイルス感染対策として、会場には学内関係者と講演者のみが集まり、残りの参加者はオンラインにて出席しました。当日は、下沖内丸メディカルセンター長の開会の挨拶で始まり、小川理事長及び祖父江学長の祝辞に続き、3氏による記念講演が行われました。最後に、小笠原病院長からの閉会の挨拶をもって式典が終了しました。



会場の様子

記念講演 1

「肥満とコロナ ～2つのパンデミックに立ち向かう～」

日本肥満症治療学会 理事長
千葉県立保健医療大学 学長

龍野 一郎 氏

記念講演 2

「国際的視野からみた岩手医科大学内丸メディカルセンター肥満症外科治療センターの重要性」

国際肥満代謝外科連盟アジア太平洋部会理事長
四谷メディカルキューブ減量・糖尿病外科センター長

笠間 和典 氏

記念講演 3

「岩手医科大学における減量・代謝改善手術の成績と肥満症外科治療センターの役割」

岩手医科大学外科学講座教授
肥満症外科治療センター長

佐々木 章 氏

■開設に寄せて

肥満症、とくに高度肥満症の治療は難渋を極めます。減量・代謝改善手術は大変有効な治療手段ですが、その効果を引き出して継続させるためには、安全な手術の提供と多職種によるチーム医療が求められます。北海道・東北地区における日本肥満症治療学会の肥満症外科手術認定施設は、北海道大学病院、岩手医科大学附属病院と東北大学病院の3施設であり、当センターは、北海道・東北地区における拠点病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

（肥満症外科治療センター長 佐々木 章）

表彰の榮譽

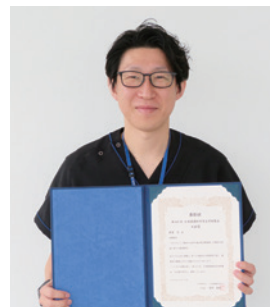
地域包括ケア講座の野里 同 准教授が日本看護科学学会学術集会 において、大会賞を受賞しました

この度、第40回日本看護科学学会学術集会において発表した「カテコラミン製剤の血管外漏出性皮膚傷害への罨法の効果に関する基礎研究」で『JANS40大会賞』を受賞しました。

この研究テーマは、附属病院で看護師としてケアを行っている際に生まれた疑問を明らかにするためにに行った基礎研究になり、これまで実証されていなかったカテコラミン製剤が点滴漏れを起こした際の罨法の効果を検討したものです。今後は、これまでの研究で得られた成果を臨床に還元し、より良いケアを提供できるよう、臨床の看護師の方々や諸先生方より御指導・御協力を頂きながら研究を進めていきたいと考えております。

最後に、これまで御指導して頂いた諸先生方、御協力して頂いた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：看護学部地域包括ケア講座 准教授 野里 同)



栄養部の宇夫方 直子 管理栄養士が日本肥満症治療学会学術集会 において、会長賞を受賞しました



左から：梅邑講師、宇夫方管理栄養士

この度、第38回日本肥満症治療学会学術集会（令和3年3月21日オンライン開催）において、「日本肥満症治療学会最優秀演題セッション 会長賞」を受賞しました。演題は、「減量・代謝改善手術後の減量・代謝改善効果と腸内細菌叢の変化」で、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた高度肥満症患者において、減量良好群では腸内細菌叢のFirmicutes/Bacteroides比が低くなることを証明しました。同日、肥満2型糖尿病患者に対する手術適応基準のコンセンサスステートメントが発表され、減量・代謝改善手術の対象患者数の増加が見込まれることから、内丸メディカルセンターに肥満症外科治療センターを開設しました。今後も、栄養指導を通じて減量のサポートを行いながら、データの蓄積とエビデンスの還元に努めてまいりたいと思います。

受賞にあたり、ご指導いただきました佐々木章教授、梅邑晃講師、ご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。

(文責：栄養部管理栄養士 宇夫方 直子)

定年を迎えられた教職員の皆様、 永い間お疲れ様でした



本年3月31日付で定年を迎え退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

- | | |
|-----|---|
| 4列目 | 佐藤 英一、林 啓朗、高橋 哲也、橋本 良子、杉澤 洋子、北川 寿子、戸賀沢 千恵子、関根 君江、渡辺 良政、小田島 智、大村 直樹、乙茂内 博 |
| 3列目 | 小松 隆、駒野 宏人、清水 真澄、高橋 康子、押田 ふじ子、吉田 貴子、小笠原 れい子、菊地 明美、佐藤 美樹、上戸 幸美、小山 耕太郎、櫻井 滋、鎌田 彰裕 |
| 2列目 | 渡辺 尚子、横田 真理子、高田 良子、細川 栄子、細界 ユカリ、三浦 まゆみ、相馬 一二三、菅原 良子、晝澤 征子、藤田 匡子、主演 典子、大森 良子 |
| 1列目 | 高橋事務局長、小笠原附属病院長、嶋森 好子、佐々木医学部長、三浦副学長、小川理事長、祖父江学長、酒井副学長、三部薬学部長、佐藤全学教育推進機構長、佐藤看護部長 |

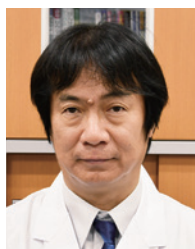
新任教授の紹介

令和3年4月1日就任

内科学講座
膠原病・アレルギー内科分野

仲 哲司 (なか てつじ)

昭和34年12月29日
大阪府大阪市出身



研究テーマ

・臨床免疫 ・抗体医薬 ・遺伝子治療 ・バイオマーカー

主な著者論文

- ・ Structure and function of a new STAT-induced STAT inhibitor. (Nature. 1997 Jun 26;387(6636):924-9)
- ・ iTRAQ-based proteomic identification of leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a novel inflammatory biomarker in autoimmune diseases. (Ann Rheum Dis. 2010 Apr;69(4):770-4.)
- ・ SOCS1 gene therapy improves radiosensitivity and enhances irradiation-induced DNA damage in esophageal squamous cell carcinoma. (Cancer Res. 2017 Dec 15;77(24):6975-6986.)

趣味

郷土史研究

教職員への自己PR

近年、分子標的薬・遺伝子治療法・再生医療など、従来の概念とは異なる医薬品が次々と開発され、従来良い治療法がなかった関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの膠原病において、「根治」が夢物語でなく現実のものとなりつつあります。われわれは、これら近年の医学の進歩を、岩手県の膠原病医療に還元し、病に苦しむ膠原病患者の福音となる医療を目指します。そして、新たな診断治療のガイドラインの元になるような岩手医科大学発の診断薬・治療薬の創出を行いたく考えています。

主な経歴

昭和 62 年	国立富山大学医学部 卒業
平成 10 年	国立大阪大学医学部第3内科 (岸本忠三教授) 助教
平成 18 年	国立大学法人 大阪大学医学部 呼吸器免疫アレルギー内科 准教授
平成 28 年	国立研究開発法人 医薬基盤栄養研究所 研究部長 国立大学法人 高知大学医学部 教授、 免疫難病センター長
令和 3 年	岩手医科大学医学部膠原病内科 教授 岩手医科大学医歯薬総合研究所 分子病態解析部門長

令和3年4月1日就任

小児科学講座

赤坂 真奈美 (あかさか まなみ)

昭和44年3月19日
岩手県宮古市 (旧川井村) 出身



研究テーマ

・小児神経学 ・新生児頭部画像 ・早産児磁気共鳴分光法

主な著者論文

- ・ボツリヌス (小児感染症学第2版: 2011 p.128-31)
- ・マルチボクセル磁気共鳴分光法による早産児の経時的脳内代謝物変化 (Magn Reson Med Sci 2016; 15: 187-92.)
- ・高磁場磁気共鳴分光法による早産児の GABA を含めた脳内代謝物変化 (Brain Dev 2017; 39: 196-202.)

趣味

旅行、滝を見に行くこと

教職員への自己PR

歴史ある小児科学講座の第6代教授を拝命し、責任の重さを日々実感しております。私は自治医大を卒業後、岩手県内の県立病院や診療所に勤務し、出産後子育てと両立しています。女性医師の両立とキャリアアップ支援も私の役割と思います。早産児や医療的ケア児の増加、移行期医療の充実など我々小児科医に求められるものは変化しています。時代のニーズに柔軟に対応しながら岩手県内はもとより北東北の小児医療レベルの維持向上に、微力ながら尽力する所存です。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成 5 年 3 月	自治医科大学医学部卒業
平成 5 年 4 月	岩手県立中央病院
平成 9 年 4 月	遠野市国民健康保険附馬牛診療所
平成 14 年 4 月	岩手県立千厩病院
平成 18 年 4 月	岩手医科大学小児科学講座 助教
平成 29 年 4 月	同 講師
令和 2 年 5 月	同 准教授
令和 3 年 4 月	現職

令和3年4月1日就任

睡眠医療学科

西島 嗣生 (にしじま つぐお)

昭和41年4月28日生まれ
岩手県盛岡市出身



研究テーマ

睡眠呼吸障害におけるバイオマーカーの探索研究

主な著者論文

- ・睡眠呼吸障害患者における睡眠障害と血清オレキシン A 濃度の関係. (Peptides 2003; 24:407-11.)
- ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群の患者における可溶性 (Pro) レニン受容体の血漿レベルと睡眠ポリグラフパラメーターとの関連. (Peptides 2014; 56: 14-21.)
- ・若年層における閉塞性睡眠時無呼吸症候群の有病率. (Sleep Med 2018; 41: 9-14.)

趣味

釣り

教職員への自己PR

誰もが人生の約3分の1を眠って過ごします。歴史的に睡眠関連疾患は12世紀後半から知られていましたが、それにもかかわらず、これまでの医療では主に起きている患者さんを対象としてきました。当学科は、日本で2番目に大学病院で開設された睡眠医療専門の学科で、その責任者となり、とても身の引き締まる思いであります。日本の中でも東北地区は睡眠医療過疎地域のため、今後の東北地方の睡眠医療、さらには日本の睡眠医療の中心となるよう誠心誠意尽力して参ります。これからも、ご支援よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

平成 8 年	岩手医科大学医学部卒業
平成 11 年	岩手医科大学第三内科 助手
平成 17 年	岩手県立大船渡病院 呼吸器科 科長
平成 18 年	Imperial College (Metabolic Medicine) London 留学
平成 19 年	Woolcock Institute (Sydney University) 留学
平成 23 年	岩手医科大学臨床検査医学講座 講師
平成 23 年	岩手医科大学睡眠医療学科 講師
平成 27 年	岩手医科大学睡眠医療学科 准教授
令和元年	岩手医科大学医学部 睡眠医療学科 特任教授
令和元年	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター副センター長
令和 3 年 4 月	現職

共通基盤看護学講座

三浦 幸枝 (みうら ゆきえ)

昭和32年10月20日
岩手県釜石市出身



研究テーマ

療養を継続する意思決定に寄与する「糖尿病患者の生きがい」、慢性の病をもつ患者心理、患者教育等、看護職員の人材育成や職場環境の整備

主な著書論文

- ・一般病棟でターミナル期を経験した遺族からの評価（日本看護学会集會論文集、看護総合、2000.）
- ・虚血性心疾患を発症した糖尿病患者の病気と自己管理に関する語り、日本糖尿病看護教育・看護学会誌、vol.13No.1,2009（共同研究）
- ・岩手県委託研究2019年、岩手県における専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者の活動の現状と課題

趣味

手芸（モラ刺繍）

教職員への自己PR

このたび、共通基盤看護学講座の教授を拝命いたしました。私は、これまで、慢性疾患専門看護師の経験をもとに、病をもちながら生きる患者の価値観や生き方を理解し自己管理を行いながら病と折り合いをつけて「その人らしい生活」を送ることを支援し研究してきました。今後も、看護実践のトップランナーである、臨床の看護職員、学内外の教員と様々な課題を共有し岩手県から全国に新たな看護を発信していきたいと思ひます。皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

昭和54年
平成13年
平成17年
平成20年
平成21年
平成25年
平成27年
平成31年
令和3年

岩手医科大学附属病院入職
岩手医科大学附属病院循環器センター主任看護師
岩手県立大学看護学研究科修了
岩手医科大学附属病院消化器肝臓内科病棟看護師長
慢性看護専門看護師
岩手医科大学附属病院副看護部長
岩手医科大学附属病院看護部長
岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座特任准教授
現職

共通基盤看護学講座

菅蒲澤 幸子 (しょうぶさわ さちこ)

昭和33年7月23日
神奈川県寒川町出身



研究テーマ

看護管理者の看護情報能力

主な著書論文

- ・看護管理者教育における看護情報学教育項目のデルファイ法による同定、日本看護管理学会誌、14(2) 39 - 48 2010.
- ・看護中間管理者の情報処理能力の因子と看護情報学テキスト目次項目との比較、岩手看護学会誌 1(1) 14 - 25.2008.
- ・看護中間管理者の情報処理能力の習得とその背景要因、医療情報学 27(2) 229 - 236 2007.

趣味

茶道（表千家）

教職員への自己PR

私は、実習報告会などで、「人相手の職業として看護師はとても良い仕事です」と学生に言っています。これは長い臨床の中で自分自身が実感していることです。大学教員としての経験は長くないですが、看護職を目指す学生に対して、援助的に関わっていきなれと思ひます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

昭和55年
昭和58年

弘前大学医療技術短期大学部衛生技術学科卒業
盛岡赤十字看護専門学校卒業後、盛岡赤十字病院勤務（看護専門学校専任教師、看護係長を経て、緩和ケア病棟師長、教育研修推進室看護師長）
日本看護協会認定 認定看護管理者
岩手県立大学大学院看護学研究科
博士後期課程修了
日本赤十字秋田看護大学看護学部准教授
岩手医科大学看護学部共通基盤看護学講座 教授

平成19年
平成20年

平成28年
令和3年

地域包括ケア講座

遠藤 太 (えんどう ふとし)

昭和40年12月11日
福島県郡山市出身



研究テーマ

精神看護学、看護倫理学、看護教育学

主な著書論文

- ・倫理問題を一歩進めるために（精神科看護 第10号 vol42 2015年：精神看護学出版）
- ・高齢・認知症患者への身体拘束に関する課題と最小化のために（精神科看護 第5号 vol40 2013年：精神看護学出版）
- ・看護学部における実習ストレスへのサポートに関する文献検討（共著 / 岩手医科大学教養教育研究年報第54号 P35-45 2019年）

趣味

ソロキャンプ・釣り・F1観戦

教職員への自己PR

この度、看護学部地域包括ケア講座教授並びに看護学部副学部長を拝命いたしました。ここ数年で、精神科臨床経験を、教育経験が上回るようになり、ますます教育の難しさ奥深さを感じる日々です。岩手医科大学の看護学部は昨年度、ようやく完成年度として第1期生が卒業を迎えたばかりですが、県内及び全国の看護の質向上に寄与できるような看護職者を輩出できる学部を目指して努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

主な経歴

昭和62年
昭和62年
平成17年

星総合病院附属高等看護学院 卒
星総合病院星ヶ丘病院 看護師
福島県立医科大学大学院
看護学看護学研究科 修了
福島県立医科大学看護学部 助教
福島県立医科大学大学院 CNS コース 修了
星総合病院星ヶ丘病院 教育師長兼専門看護師
帝京大学医療技術学部看護学科 准教授
岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 講師
岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座 特任准教授
現職

平成17年
平成20年
平成20年
平成24年
平成28年
平成29年
令和3年

1. 2020年度補正予算について

2. 中期計画の一部変更及び2021年度事業計画について

本法人の中期計画について、2020年度実施予定事業の検証結果及び新型コロナウイルス禍や大学の財政状況等を踏まえ、実施時期、規模等を見直したことに伴う本計画の一部変更、並びに見直しを行った中期計画に基づく2021年度事業計画について審議し、この後開催された評議員会の諮問を経て最終決定した。

3. 2021年度予算について

4. 理事の職務担当区分について

5. 評議員の退任及び選任について

6. 教員の人事について

医学部内科学講座膠原病・アレルギー内科分野 教授
仲 哲治（前 高知大学医学部臨床免疫学講座 教授）

医学部小児科学講座 教授

赤坂 真奈美（前 同講座 准教授）

医学部睡眠医療学科 教授

西島 嗣生（前 同学科 特任教授）

医学部産婦人科学講座 特任教授

小山 理恵（前 同講座 准教授）

医学部麻酔学講座 准教授

熊谷 基（前 同講座 講師）

医学部内科学講座消化器内科消化管分野 特任准教授

梁井 俊一（前 同分野 講師）

（発令年月日 2021年4月1日付）

7. 組織規程及び教育職員の定員に関する規程の一部改正について

リハビリテーション医学科をリハビリテーション医学講座へ改編するために組織規程の一部改正すること、教員定員について、当該講座の定員を3名から7名へ増員、医学部臨床系講座間における定員の差異の解消、また歯学部口腔医学講座関連医学分野助教、補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野准教授、講師の定員各1名を設定するために、教育職員の定員に関する規程の一部改正することを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

8. 学則の一部改正について

医学部、歯学部、薬学部、看護学部における2021年度教育課程の再編に伴い、学則の別表1を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

9. 職員就業規則等の一部改正について

専攻医を専門研修医へ一元化することに伴い、第2条の条文から専攻医を削除すること、職務限定職員の雇用に伴い第3条第2項の職員の職へ当該職を追加すること、別表第4において「栄養士」を「管理栄養士」に改め、専門学校関係に「主幹」を追加すること、子の看護休暇の取得対象年齢を「12歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子」に拡大することとし、職員就業規則を一部改正すること、また、職員の育児休業等に関する規程について、育児短時間勤務の適用除外条件であった「育児短時間勤務申出日において採用後1年未満の者」を削除することを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

10. 固定資産管理規程及び物品管理規程の一部改正について

固定資産及び物品について、公的研究費の管理・監査のガイドライン等に基づき適切に管理するため、管理責任者や基本的に重要な減価償却資産の明示、換金性の高い物品の管理、廃棄基準の明確化等、所要の整理を行うこととし、固定資産管理規程及び物品管理規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

11. 内丸メディカルセンター規程の一部改正について

内丸メディカルセンターに、リプロダクションセンター、肥満症外科治療センター及び化学療法室を設置、医科診療科に血液腫瘍内科を追加、医療安全管理部、感染制御部に常勤医による責任者、各部・室・センターに副部長・副室長・副センター長を配置することとし、内丸メディカルセンター規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

12. 附属病院MRI室改修工事に係る業者選定について

1. 理事の競業について

2. 学則の一部改正について

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、看護学部における2022年度の教育課程を再編することとし、学則の別表1を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日）

3. 附属病院規程及び附属内丸メディカルセンター規程の一部改正について

附属病院及び内丸メディカルセンターの診療部門について、呼吸器・アレルギー・膠原病内科を呼吸器内科、膠原病内科へ組織改編すること、附属病院にがん診療センターを設置すること、職員就業規則の一部改正に伴い、栄養士を管理栄養士に改めることとし、附属病院規程及び附属内丸メディカルセンター規程の一部改正を行うことを承認した。

（施行年月日 2021年4月1日）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。

ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第3回目のご芳名紹介です。(令和3年1月1日～令和3年3月31日)

■ 法人・団体等 (7件)

<100,000>

アストモスリテイリング株式会社 (岩手県紫波郡)

<ご芳名のみ>

青山産業株式会社 (岩手県盛岡市)

河北印刷株式会社 (岩手県盛岡市)

医療法人 明信会 (福島県郡山市)

有限会社 岩手医大歯学部売店 (岩手県盛岡市)

江渡商事株式会社 (青森県青森市)

医学部9期 三五の会 (岩手県盛岡市)

■ 個人 (8件)

<100,000>

木村 明義 (一般)

<10,000>

林 祐介 (歯20)

藤森 茂 (医32)

<ご芳名のみ>

後藤 康文 (役員)

大野 和幸 (医60)

本田 信也 (医43)

白岩 和香苗 (医49)

堀井 高文 (医49)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	127	60,251,110
在 学 生 ご 父 母	4	5,000,000
役員・名誉教授	12	13,870,000
教 職 員	10	870,000
一 般	4	21,120,000
法 人 ・ 団 体	69	23,065,481
合 計	226	124,176,591

(令和2年9月1日～令和3年3月31日現在)

創立120周年記念事業募金

第39回目のご芳名紹介です。(令和3年1月1日～令和3年3月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<ご芳名のみ>

医療法人 みどり歯科医院 (秋田県能代市)

富士ゼロックス岩手株式会社 (岩手県盛岡市)

■ 個人 (1件)

<100,000>

藤井 謙 (医27)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,085	647,095,089
在 学 生 ご 父 母	921	537,910,000
役員・名誉教授	98	124,040,000
教 職 員	263	35,262,000
一 般	143	48,515,010
法 人 ・ 団 体	390	1,101,084,000
合 計	2,900	2,493,906,099

(平成26年6月1日～令和3年3月31日現在)

薬剤部 (医薬品情報・薬務部門、教育・研修部門)

医薬品を有効かつ安全に使用するためには、医薬品情報が必須です。医薬品情報・薬務部門では、医薬品に関する問い合わせへの対応のほか、医薬品情報の収集・管理、薬務連絡による院内への情報提供、DIニュースや院内採用医薬品薬効別一覧の作成などを行っています。また、特定機能病院の承認要件の中で、医薬品の適応外使用や禁忌使用を適切に管理することが求められており、病棟担当薬剤師や医療安全管理部と連携した医薬品の適正使用を推進しています。そのほか、医薬品の採用や中止を審議する「薬事委員会」の事務局を担当しています。

教育・研修部門では、主に新人薬剤師や薬学生への教育研修を担当しています。新人薬剤師に対しては、基本的な知識・技術を習得することを目的とした初期研修チェックリストを作成し、教育体制の標準化を目指しています。また、

薬剤部員全体のスキル向上を図る目的で、薬剤部内勉強会を定期的に企画・開催しています。

(主任薬剤師 於本 崇志)



看護部 (看護部長室)

看護部長室は、病院の事務部門などと連携が取りやすいよう、5階病院管理エリアに配置されています。副院長兼看護部長、副看護部長4名、看護師長3名、主任看護師2名、看護補助者1名、事務2名が所属しています。いつもやさしい笑顔で看護への熱い思いを語ってくれる看護部長と、部署の問題解決に向けた支援を行う副看護部長が中心となり、「よく見る」「よく聴く」「感じる心」を大切にした看護を提供するために日々奮闘しています。

外来師長は、みんなの輪を大切に外来の統括をしています。皮膚・排泄ケア認定看護師は、思いやりの心を大切に院内外で活躍しています。教育担当は、丁寧にやさしく接することを大切に看護職員の教育、研究支援に努めています。看護補助者は、1日1回以上は誰かの役に立てるようにと思い快適な環境整備に努めています。事務は、優しい気持ち

をもって看護職員の事務手続きなどの支援をしています。どうぞお気軽に看護管理室にお立ち寄りください。

(教育担当主任看護師 田村 聖子)



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

隔月発行となって初めての岩手医科大学報をお届けします。今回の特集ではレジデントハイムをご紹介しました。完成見学会で室内を見させて頂きましたが、とてもきれいで住みやすそうなお部屋です。沢山の方々に利用していただけることを期待しています。

附属病院の矢巾移転も一段落し、新しい部署も増えたことから懐かしの人気コーナー「職場めぐり」も復活しました。隔月化に伴い少しゆっくりとしたペースになりますが、ますます濃い内容を目指してまいりますので、どうぞご期待ください。(編集委員 影山 雄太)

岩手医科大学報 第535号

発行年月日/令和3年5月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@jiwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 100

泌尿器科学講座 教授 阿部 貴弥



透析療法の最近の状況

はじめに

末期腎不全（腎臓の機能が10%未満）になると、体内の恒常性を保つことが出来なくなり、腎臓の働きの代わりをする腎代替療法が必要となります。腎代替療法は透析療法と腎移植に大別され、腎移植については以前（No.68）お話ししましたので、今回は透析療法についてお話しします。

血液透析と腹膜透析の違い

透析療法には血液透析と腹膜透析があります。腹膜透析は毎日、自分で治療を行う必要があること、入浴が困難なこと、治療期間に限界があることなどの欠点があります。しかし、血液透析に比べ残腎機能の保持（透析開始後も長い間尿量が確保される）や循環器系への負担が少ないなど体に優しい治療です。更に食事制限や通院による時間的制限が少ないなど患者さんにとっても優しい治療です。しかし、日本の腹膜透析患者数は全透析患者の3%程度であり、諸外国に比べ腹膜透析の患者割合が非常に少ない状況です。そのためわが国では「透析」といえば「血液透析」の感が強いのはそのためです。

この様な大きな偏りがある理由として、医療サイドの説明不足があげられています。透析療法はケアではなくケアであり、一生必要なものです。そのため、個々の患者さんの生活背景、活動性、生きがいや死生観を含めた考え方など様々な因子が関与してきます。本学附属病院の血液浄化療法部には学会認定の有資格看護師がおり、彼女らを中心に、患者さん一人ひとりの思いや悩みを医療スタッフと共有し、個々の患者さんが最も納得される最善の治療法を選んでいく方法（共同意思決定：Shared Decision Making/SDM）を行っております。そのことにより腹膜透析を選択される患者が多く、岩手県下の約15%の腹膜透析患者の管理を行っております。

腎代替療法（RRT）の比較

比較項目	血液透析	腹膜透析
治療場所	医療施設	自宅・会社
治療者	医療スタッフ	本人・家族
通院回数	週3回	月1～2回
治療時間	4～5時間／回	連続24時間・連日
手術	内シャント設置術	PDカテーテル挿入術
残腎機能	すぐに消失	長く残る
循環器系への負担	あり	少ない
生体内環境の変化	大きい	少ない
食事制限	あり	少ない
治療に伴う時間的制約	あり	少ない
入浴	治療日は不可	困難
治療限界	終生にわたり可能	5～10年

おわりに

もし、知り合いの方で将来的に透析療法が必要と言われた方がいらっしゃいましたら、腎移植を含めた腎代替療法について一緒に考えることができればと思いますので、ご相談ください。